

## 輝く未来を信じて

やすだ ゆうしん  
安田 悠真

僕は幼い頃、死ぬことが怖かった。戦争の映像をテレビで観たり、本で読んだりすると、その悲惨さを想像して眠れなくなった。もしも、自分の住む町が、戦火に包まれたらどうしよう。つらい映像が、頭の中を駆け巡る。でも、その一方で、自分の周りで戦争が起きるはずないと安心していった。戦争は、遠い昔の話だ。明日もこの平和な毎日が続くだろうと、僕は信じて疑わなかった。

果たして今、本当にそうだと言い切れるだろうか。

世界を見渡してみると、今もいろいろな地域で戦争や紛争が起きていることが分かる。ウクライナで起きている戦争を毎日のように耳にして、心を痛めている人もいるだろう。もしかしたら、幼い子どもが、爆撃に巻き込まれているかもしれない。幼い頃の自分と同じように、死への恐怖と闘いながら、眠れぬ夜を過ごしているかもしれない。そして、明日の平和を夢見ながら、小さな心を震わせているかもしれない。そんな胸がしめつけられるような現実が、僕たちのすぐ近くで起こっている。

自分たちは大丈夫だなんて、誰が言えるだろう。今、戦火にあたる人々も、ほんの少し前までは、平和な毎日が続くと思っていたに違いないのだ。

誰もが明日が来るのを信じて毎日を過ごしている。「明日も穏やかでありますように」と。その思いをいとも簡単に裏切ってしまうもの。それが戦争なのだ。今僕たちは、争いのない平和な毎日を過ごしている。そんな僕たちにこそ、できることがきつとあるはずだ。それは、つらい体験をしてこられた方から、戦争の悲惨さ、愚かさを学び、世界に発信し続けることだ。過去を見つめ、その教訓を現在に生かそう。その先に、必ず明るい未来がやってくると、確かな希望をもって。

僕は今、幼かったあの頃の自分に語りかけたい。戦争について一緒に学ぼう。そして、輝く未来を自分たちの手で作っていかうと。そしてこの強い思いを、戦火に苦しむ世界中の人々に伝え続けていきたいと思う。